

# ワケ カタチには理由がある(31)

## ～ドゥラン(Delanne) / OC?



[同じタンデム翼のプー・デ・シェルと→]

本機は、1941年に初飛行したフランスの試作戦闘機です。1941年といえば、すでにフランスがドイツ軍に占領されていた時期で、初飛行後、ドイツに接収され、その後鉄十字のマークを付けて飛行したようです。前翼と同じぐらい大きな後翼を有するタンデム翼形式の機体で、実際に飛んだ数少ないタンデム翼機の一つでした(他には、英国ライサンダー機の改造機と、ベストセラーホームビルト機のプー・デ・シェルぐらいしか思いつきません)。「風の谷のナウシカ」に登場する、トルメキア軍のコルベットが同様の形式なので、逆説的に、コルベットもちゃんと飛ぶんだ、と技術的裏付けができる機体です。形式にあるCはフランス軍で戦闘機に与える符号のようで、戦闘機として作ったようですが、前翼をガル翼とし、射撃時の視界を確保するのは良いとしても、タンデム翼は揚力を前翼及び後翼に分散して発生させる形態で、機敏な機動を要求される戦闘機には向かない形式だと感じます。また、この機体の形状的魅力は視界の広い後部座席ですが、あまりに無防備なので、これも戦闘機らしくありません(銃手としては、あまり座りたくありませんw)。

### 【模型について】

フランスのHI-TECH製1/72のレジンキットです。この作品、もう20年以上前に制作したもので、「月刊スケールアビエーション」の読者投稿欄に掲載されこともあります。その際、編集部から「ハイテック社代表のフィリップ氏は元エレールの開発者。その風貌は『ルパン三世・死の翼アルバトロス』に出てくる博士そっくり。」とコメントをいただき、とても同メーカーに愛着がわきました。

(中川裕幸 2021年6月)